

## nano tech 2007 への参加報告

(社)ニューガラスフォーラム

松田 弘一

### Report on the nano tech 2007 Exhibition

Koichi Matsuda

New Glass Forum

#### 1. 三次元光デバイスプロジェクトの展示会初参加

恒例となった国際ナノテクノロジー総合展(nano tech 2007)も今年で開催6年目を迎え、昨年と同じく東京ビックサイトで2007年2月21日(水)から23日(金)まで、3日間にわたって開催された。今回の出展者数は、484企業・大学・団体(国内317社、海外22カ国167企業・団体)にのぼり、入場者も約4万85百人と昨年よりも35百人も増加して、名実ともに世界最大のナノテクノロジーの国際展示会となった。

この国際的な展示会に、2006年3月で終了したナノガラス技術プロジェクトと関係の深い三次元光デバイスプロジェクト(2006年7月から研究開発開始)が、初年度でもあるに拘わらず、プロジェクト内容説明パネル及び本プロジェクトが目指している成果物の模型等を出展、展示した。今回は、NGFつくば研究室研究員(NGF研究員及び本プロジェクト参加企業\*1からの出向研究員)の他に本プロジェクトの共同実施先である京都大学平尾研及び浜松ホトニクス株式会社からも説明要員を派遣頂き、

〒105-0004 東京都港区新橋 2-12-15  
TEL 03-3595-2775  
FAX 03-3595-0255  
E-mail: matsuda@ngf.or.jp



写真1, 2 多数の来訪者

一緒になって目指している成果を大いにアピールした。本プロジェクトとナノガラス技術プロジェクトとの関わりを、液晶パネルを活用した動画による分かり易い説明及び、2次元と3次元ホログラムを用いた模型展示物等の視覚に訴える工夫を凝らした結果により、三次元光デバイスブース内は連日昨年と同等か上回る見学者



写真3 METI 塚本審議官来場

で溢れ、非常に盛況であった(写真1,2)。これを裏付けるように見学者の名刺も昨年を上回る約320枚ほど集まった。

注) \*1: フジノン株式会社, 株式会社オハラ, ライトロン株式会社, ナルックス株式会社, 大日本印刷株式会社

今回は、経済産業省(METI)の塚本審議官が来場し、本プロジェクトの説明パネル、展示物等を見て回られた(写真3)。本プロジェクトへの関心の高さの現れだと恐縮した。

## 2. 驚異のNEDOゾーン「独創技術賞」の受賞

今年も例年通り、入場者のアンケート調査によるNEDO表彰があった。これは、前半2日間の入場者(今回は3万人強)に対して、NEDOプロジェクトの中の優秀な技術に関するアンケート調査を行なって、その得票数により①最

優秀技術賞, ②独創技術賞, ③有望技術賞の3賞を決定するもので、結果は、なんと三次元光デバイスプロジェクトが、参加初年度にもかかわらず、並み居る古参プロジェクトを押さえて、②の「独創技術賞」を受賞した。「やったあー」これが本プロジェクトに係わった関係者の偽らざる素直な気持ちである。nano tech 2007の参加が決まった当初、プロジェクト開始半年でキチンとした成果(試料)がない中で「どういものを展示したらよいか、今年はパネルだけか・・・、いやいや我々の並々ならぬ本プロジェクトに対する真摯な思いをぶつきたい等・・・」の様々な思いが交錯し、関係者のありあまる知恵を絞った結果であった。

これもひとえに本プロジェクトリーダである平尾京大教授及びプロジェクト参加企業の出向研究員達、共同実施先の京都大学の先生方、浜松ホトニクスの研究員達及びフォーラム研究員達の本プロジェクトの研究開発への意気込みと熱意の賜と考える。感謝! 感謝!

なお、①の「最優秀技術賞」はナノコーティング技術((財)ファインセラミックセンター)、③の「有望技術賞」は精密高分子技術が受賞した。

最終日の午後1時過ぎに表彰式が展示会場のメインシアターであり、NGFのつくば研究室の鈴木研究員が代表でNEDOの本城理事から表彰を受けた(写真4)。昨年と同じ賞状と副賞が一体になった盾を頂いた(写真5)。これ

表1 nano tech 総合展示会におけるNGF受賞歴

回数	開催年月	参加企業・団体数	入場者数(人)	受賞歴(NEDOゾーン)	参加プロジェクト名	備考
第2回	2003年2月	データ不明	約2万50百	「独創技術賞」及び「実用化有望賞」	ナノガラス技術	幕張メッセ
第3回	2004年3月	国内108 海外62	約3万25百	「独創技術賞」	ナノガラス技術	東京ビッグサイト
第4回	2005年2月	国内225 海外87	約3万90百	—	ナノガラス技術	
第5回	2006年2月	国内264 海外120	約4万50百	「最優秀技術賞」	ナノガラス技術・F21デバイス用高機能化・F21ディスプレイ用高強度	
第6回	2007年2月	国内317 海外167	約4万85百	「独創技術賞」	三次元光デバイス	

参考) nano tech総合展示会開催場所は、以下の通りである。



写真4 独創技術賞授与式  
左：本庄理事 右：鈴木研究員



写真5 表彰盾（独創技術賞）  
表彰状 賞状内容

とは別に、フェア関係専門委員が企業出展から選んだ nano tech 大賞 2007 の表彰があり、2007 年は富士通㈱がナノテク大賞を受賞した。

NGF が nano tech 総合展示会に参加してから今までの状況を表1に記す。

我々にとってはこれらは輝かしい成果であり、展示会参加者の皆様方に認めて頂いた事は、研究者として大変誇れることだと思う。

### 3. こぼれ話

実は、今回の「独創技術賞」受賞が決まった時、我々以上に NEDO の関係者が「えっ！」という感じであった。これは、本プロジェクトが初年度のために、研究自体は、3ヶ月くらいしか着手できていないのに「何故？」との思いと、前年に「ナノガラス」で最優秀技術賞を受賞しており、それに続く新プロでの受賞だったからでしょうか。「組織票を動員したのでは？」といった冗談口さえ聞こえたほど、関係者にとっては意外な受賞のようでした。

また、企業ブースでは当たり前になっているコンパニオン制度を、NEDOは2006年より

導入したので、今回も三次元光デバイスのブースに女性が1名派遣されてきた。この女性がなんとまあ、昨年とたまたま同じ女性であった。一目見て分かった位に全く昨年と風貌、容姿は変わっていなかった。ただ彼女は、我々のことを全く覚えていなかったが……。仕事は熱心で、今回も積極的に名刺集めに徹して、今までの最高となる320枚（昨年は290枚）もの名刺を集めてくれた。名刺を持っていない人には、手作りノートに名前、連絡先等を記入してもらっていた。何というきめの細かさ。さすがプロ。今後これらが実用化の時に役立ってくれるものと確信している。

ともあれ、NGF 田中室長、平野部長研究員他の積極的なフェア参加指導、NGF、大学及び浜松ホトニクスの出展3社の研究員による手厚く、分かり易い説明、工夫された展示物、NGF 本部とつくば研究者との事前準備連携の良さ等により、今回の展示も大成功で、成果が来年につながる展示会となった。

以上